

主催者挨拶

大学評価コンソーシアム

代表幹事 小湊 卓夫

(九州大学 基幹教育院)

これまで開催してまいりました大学評価担当者集会ですが、本年度から大学評価・IR 担当者集会と名称を変えました。もともとは 2007 年、当時、大学評価が始まったばかりのときでして、そのときに評価担当者という、新しい業務に就かれた方が多くいたわけですが、学内で評価についていろいろ相談できる方がほとんどいませんでした。そうすると、業務を 1 人で抱え込みながら、または少人数で抱え込みながら、実施していたという状況でした。

そこで九州大学のほうからちょっとお声掛けさせていただいて、最初は 30~40 人ほどでしたか、評価担当者の方々に集まっていたいただいて、相互研鑽、または相互の悩みをいろいろ出しながら、解決策を探っていくというような交流と、相互研修の場として、実はこの集会を始めたといういきさつがございます。そして大体 5、6 年ぐらい前からでしょうか、日本の大学の中にも、徐々に IR の機能というものが少し形になり始めてきました。

そういうこともあって、評価の活動と IR の活動は、大学の様々な活動を、見るデータは若干違えども、俯瞰しながら、いろんな特徴や課題を探り出していくという意味においては、ほぼ同じ活動をしているということもあって、5、6 年前から、IR 絡みの企画を担当者集会の中でも扱いましたし、コンソーシアムでやってるさまざまな研修会や勉強会でも、今まで扱ってきました。

今日、この会場にお集まりの皆さんの中には、そういう研究会や集会等にご参加いただいた方も、数多くいらっしゃると思います。名簿を見ている限り、何回も出ていただいているなという方も、かなり多くなってまいりました。名称としては大学評価担当者集会でしたけれども、IR を実際に担当される方々の数が、急速に増えてまいりましたので、名称のほうも IR という言葉を盛り込むことにいたしました。

今日この場にお集まりの皆さまの中には、特に評価の初級の方々はそうですけども、昨日から集会に参加していただいております。また今日から参加されるという方も、結構数多くいらっしゃるかと思います。昨日もそうでしたし、今日もそうですが、最高気温が 35 度という天気予報を見て、ちょっとびっくりしているところなんですけれども、会場の中は幸い立命館大学さんに冷房を効かせていただき、また会場も貸していただいて、非常に感謝申し上げるところです。

その中で、皆さまがたには、ぜひ積極的に周りの方々と関わっていただき、ネットワークをつくっていただく。その上で、ご自身の今までの取り組みの活動や、今抱えている課題等々を、率直に話していただいて、相互研修の場として、熱い議論を交わしていただければと思います。2 日間、ないし 3 日間ですけれども、長丁場になりますが、どうかよろしく願いいたします。